伊地知文庫
文庫20
106

進物……紙

加持井御文庫

文庫20
106

[illegible]

伊地知氏書冊

竹柏園文庫

[illegible]

賦何 [illegible]

まつ宵や人の何かし新ら　梅
ふる野紀のもとの月　寂
荻の葉の龍のみそ面白て　月
書置は文に露も咲　桃
嵐吹荻路にもゆる朝ぶし　月
目なれぬ河ふみに津にしと　牧
半弁乃宮つゞくらふ咲て　月
庵ぬまもる末乃つし　桃
鮎のおかあるうろひをもの　牧
明そて番紺紳の秋宮　月
あくるをこふる月にてゝのへ　桃
かれんたらて椿の山に　月
人もまれ都やあはれてしん　月
せ前のてかすかみの清く出　牧

たる蔵の清の下草を風見てや　月
秋やこの跡学の前　月
こそうおく露なかひき吹荻　桃
行き別て人にいそかれし　月
清き行て松もそこ月すて　月
かく露てならひへむせう　牧
老もいのれまそ心枝葉　月
とよみて[illegible]かの里　月
はるにも宇をうつ橋さかん　桃
淋しき顔の月をくるめん　月
[illegible]嵐も妻の[illegible]山　月
[illegible]乃[illegible]明ける　牧
[illegible]の月の枕の[illegible]　月
[illegible]やくの[illegible]　月
[illegible]　桃
[illegible]乃[illegible]　月

しら波をこそし定解かけり縁で　月
宮にくらき汁のかわりし決　粒
山かげの声うすきは雪似せ　月
前栄てくすり夕日さかしを　月
若い口つかまて人もして大工寄明年　拍
堂みすそも霜雲風もくも祢　月
若狭の存はうるも表を紗風て　粒
西の寺さぬ物年の月多　月
日々に乃粋し去る荒薇の露　月
上の字術後それ世しのみ　拍
寝かへ今日も了そて　月
長田てもなし汐音はて　月
思うる気遣ひ漁せてすみ森ふ　粒
うちふ寄りする女にはしか　月
一むらの山路を過ぎ紗して　月
大きうも折し寄ふ抱行　拍
ら縁てらず家やまわれ尊ね　月
[illegible]のみ[illegible]自に業平ぬ　月
[illegible]義てもさ針けれ　粒
せかを教えしゆ[illegible]草老て　月
かの濃きて胡蝶ふけ　拍
[illegible]ありあしき菊の[illegible]　月
人々乃葉ゆかしや　月
六ヶ当て世をまふいてこ　粒
行そ神わりのさらひてふ　月
あやめのかしそ交うゝかゝ　月
うしろや風も荒の緑ふ　拍
姜さて御手をうち山と　月
水くもそろもむ露の一所　月
月かれてらさ女のさえかを　紛
よ海ゆのり[illegible]古ち始の糸　月
根への神もふ御く差うそ　拍
やくらくとめくなそ何さ　月

まつ枝もさえ[illegible]雪や[illegible]らん　月
ゆふかけりうつる所りらし山　月
たかや尾上のこゑ遠く日暮て　抱
うき枕ゆめさへ結ふさ夜もなし　月
こゑ人をまちて結ふれは秋の[illegible]　月
ふかき夜の[illegible]さへ秋の[illegible]　紹
あはれにも[illegible]れ[illegible]そ[illegible]て　月
ゆめのさめ[illegible]し[illegible]と[illegible]　月
ちらすな[illegible]山[illegible]　抱
むすふともしらぬ神のいさ[illegible]　月
いたつらにめくるやへの[illegible]　月
わすらるゝ又[illegible]　紹
ふしみの[illegible]そ[illegible]て　月
よそ[illegible]秋の[illegible]　月
さひしき[illegible]かけの[illegible]　抱
ほと[illegible]神[illegible]　月
[illegible]やらの[illegible]　月
けふ[illegible]　紹
[illegible]　月
[illegible]　月
[illegible]の[illegible]　抱
[illegible]月の神[illegible]　月
[illegible]　月
[illegible]　紹
[illegible]　月
[illegible]　抱
[illegible]　月
[illegible]　紹
[illegible]　月
[illegible]山　紹
[illegible]　[illegible]

手にもとらぬ物の名の桃　〃
身のうへをおもふ時鳥花月
この川明や見るをおもひし　牧
梅　五句　宗牧　五句
花　・　二　二　二　二
其　に　三　一　二　十
春　三　二　三
十

何船　天文八十月二日　三吟　道増院
時鳥まつ風や松の西嵐
いそやまのちかひけらし
山かくす川霧の朝さむく
露をきそふ野のかけに
月は又そらに霧もまよひ
涼しき風はふきそみけり
わかれそめし夢のね覚めて
きしにそよくは蘆のみなと
ゆふべ根をこえし流木のうき
うきてしらぬあまの屋をはなれ
くまもなくいそしらぬもて
みやこ思ひやしかすかに
そのかたはやすみ会ひて

いけなれハさることハりなれ
ありやとおもふ心のうちにそ行
行もとし秋の月を見る事
難波の浦にてよみける歌の浦
かくて後の浦にてひさしく
さ波の浦々にてさわひき
岩かねのこゑにしてまたもなく
これまて見ぬ行ときこえ人々家
しるしにも波の上にのこるかな
田子や在ハ母とも知りけん
打よせしうちよすへき
またもまた緒絶の月の空にそ
此国の月かけをまちもしらぬかな
よろこひてまたありけるとおほしめされ

御衣のたもとにそよ
藤田の野のまの夕風は
かきたてにもやまさりけん
わかれの程のおもかけて
よりハ小宰相の局と申し
御妹にあはせの月は都
一条院に参らせたまひし
やうやうかく紅葉の袖に
又ともしらぬ夜かひの風に
此のふかつつき如くに
さめてかの空の月秋
あきらかにしれはかくの風にて
御方ハ程もなく伴ひける歌の終

古歌にこそ人の露のよすがをもよせ
こそあれ風や吹そめけん秋
宮河の(?)春の明の浦伝ふ
ゆかしくてそれにむかへて
こゝろ人のはかなき事
ひるとよりさりけるにひとつ
ありけるにつけ行のさまし
事よくてこそいたまえられ
ある
出家しならひて玉のたま
なきにそ恋しく人のゆめは
ことにつけてものあはれ人の
とおもひてもつれなる人の
見えてありけるや

こゝろもしけやらんかたこそなにをし
ありてもよそとこそ人の縁
にあらぬそらの月はさらに
ふるき色まさりて松の風
涼しきなれのひゞきをまた
すくなくて萩に枝をみそれ
ゆくかたかなしきの雲の行
秋のなかなれて雲井をこそ
けさに涙にしをれてさりけれ
ことなれば心かよはれて
こゝの袖をぬらしてけりける
我よ人の恋の恨といひてあれ
ことなかりさまとそあはさなれば

人傳にのみかく松風の聲聞て
そのかみよりの[illegible]
折ふし世に[illegible]
[illegible]
[illegible]
みなはいさ人[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
世[illegible]
[illegible]

木末には月[illegible]松風
枕にちかく[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
ゆきひら[illegible]
山風[illegible]
[illegible]
[illegible]の枝[illegible]
[illegible]
[illegible]

月すさましハたゝ鳥そなくなるね
舟うくかたハ沖の細波
いさりするくまなく海の暮毎
山のはの雲も月の影の内
行しかたの旅ハ世をすてつゝ
有はてん露とふる衣に
よその庭の霜の草

兎

何木　天文八　正廿九　梅月にて

梅かゝれ一重咲八重も匂ふ哉
別てなき人かねのこゝの香
若菜つむ人ハ谷をもはなれて
明ぬ山の雪もきえたり
晴ぬれハ嵐の月の影さえて
さむく扉のかさゝぎのとまり
かさゝきの橋の夕暮
舟まちて渡もはてぬ岩根哉
川つたひゆくのゝ夕煙
きこえちる出雲のかよふみちのまる
ゆくとなけきたるらしも
一声もきゝ都のそらのさゝら
をちこちの山やいつなれし
かはやいつくのまさ枝
おのかしらのひとつ
尾上ちる雲のうき
枝にうつる風のうちのしかし

亭 真 宗 孝 昌 手 宗 牧 手 牧 ス 牧 宗 牧 牧

神ぞ知るの[illegible]や何か[illegible]ん　紹
浪よりも[illegible]の露霜さえて　兼
思ふよりもふ[illegible]の戸　紹
[illegible]延喜を[illegible]て絶えに　兼
[illegible]ふ[illegible]や　紹
世をば[illegible]や妹の菖蒲のよ　兼
[illegible]月は[illegible]の下露　紹
[illegible]の[illegible]袖　兼
美の[illegible]のよる[illegible]て　紹
[illegible]年の末は[illegible]　兼
聞て[illegible]の[illegible]　紹
[illegible]の末[illegible]夕月影　兼
[illegible]の風[illegible]　紹
[illegible]ふ[illegible]　手
[illegible]ひ[illegible]　兼
[illegible]月　紹
[illegible]とふ[illegible]　拾
[illegible]日の[illegible]　紹
美目[illegible]や[illegible]て　兼
[illegible]の下り[illegible]　紹
[illegible]の[illegible]　紹
[illegible]月は[illegible]の[illegible]て　兼
[illegible]　案
[illegible]のわや[illegible]　紹
[illegible]　紹
[illegible]の下[illegible]て　兼
[illegible]や[illegible]　紹
美の[illegible]の[illegible]　兼
[illegible]の[illegible]　兼

何人　天文八 五 廿六 於[illegible]

[illegible]　宗[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　手

[illegible]　[illegible]

[illegible]　理

[illegible]　宗[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

何船　天文八 六 廿四 [illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

北野

同　発句

おく[illegible]れ枝しけりて　慶親

雪の[illegible]越て[illegible]あたり[illegible]けり　[illegible]

ゆく[illegible]も追手やしらるる　牧

[illegible]　同[illegible]

何人　天文八十一廿八　梅津にて

冬年の[illegible]も松の白かね　[illegible]

[illegible]の[illegible]雲[illegible]　[illegible]

山風の音は夜まて[illegible]なり　[illegible]

月は[illegible]秋[illegible]やよそに[illegible]　[illegible]

[illegible]の[illegible]の色の見え[illegible]　[illegible]

[illegible]の[illegible]枝の[illegible]　[illegible]

[illegible]と[illegible]かすみ[illegible]　[illegible]

入日[illegible]　[illegible]

松風や[illegible]　[illegible]

[illegible]の[illegible]　宗[illegible]

とかく[illegible]　[illegible]

おもひ出る宗祇の月もつもりきて — 全
書きたる筆の跡をみるかな — 兼
いさゝかも空しき人のなきことを — 宗
ゆふ暮ちかき秋の世間 — 玄
雨そゝぐ野のさと一とせ — 庭
星合の契りやたえず結ぶらん — 政
いつまでかはるのこゝろね — 昌
柳ちる垣根の露に鶯の — 紹
窓にさしてやかし[illegible]山 — 巴
竹の葉の音を[illegible]ちかき — 貞
のこる雪まれに道のかげ — 玄
二 あらしさへ時の小笠原かよふ — 全
日かげをかくるゝの一声 — 兼
ながめやる[illegible]雲[illegible] — 玄
[illegible]かすみにまがふ遠山 — 昌
そのかげの[illegible]かへる[illegible] — 巴
[illegible]かいの[illegible]ふるさとに — 玄
いはねど見え[illegible]世のほどの[illegible] — 庭
[illegible]のかきねの山 — 宗
こゝろざしの[illegible]風 — 昌
袖の行[illegible]濡れて[illegible] — 貞
人かはりけふの秋[illegible] — 玄
[illegible]の[illegible]に[illegible]見え — 昌
[illegible]かくれ[illegible]と[illegible] — 政
またも[illegible]こゝろ[illegible] — 昌
打[illegible]の山 — 紹
[illegible]のかたの月 — 巴
[illegible]の[illegible] — 全
行[illegible]神の[illegible] — 宗

夜寒ぬ月ハまだ出ぬ夜となりぬ　宗
鹿の音やまつ山ハ更て　幸
嫦娥にすむ心へ行らん[illegible]　若
うき世にハ人ハ信てのミ　[illegible]
命さへ有にかひのある鏡　幸
朝ぼらけ霧さへかゝる浦　岩
いさり火の影と露や思ひ　[illegible]
岩がねの[illegible]にや[illegible]　若
今ハた[illegible]秋の[illegible]山の[illegible]　宗
のこる月[illegible]　幸
[illegible]若竹[illegible]らん　[illegible]
[illegible]ハ[illegible]　幸
[illegible]　若
[illegible]中[illegible]　令
[illegible]　岩
[illegible]山[illegible]　[illegible]
[illegible]の[illegible]　幸
[illegible]　若
[illegible]の[illegible]　[illegible]
[illegible]の[illegible]　[illegible]
[illegible]山[illegible]　[illegible]
[illegible]月ハ[illegible]　[illegible]
[illegible]の風　岩
[illegible]　[illegible]
野ハ[illegible]　幸
[illegible]　[illegible]
[illegible]の[illegible]　幸
人[illegible]　[illegible]

打ち[illegible]
[illegible]　全
[illegible]　芭
[illegible]　桃
[illegible]　杏
日[illegible]　杏
月[illegible]　李
[illegible]の[illegible]　芭
[illegible]　李
[illegible]松の[illegible]の[illegible]　桃
[illegible]　杏
思[illegible]の[illegible]　全
[illegible]　杏
[illegible]　芭
[illegible]けの[illegible]　桃
黒[illegible]の下[illegible]　桃
[illegible]　李
ひ[illegible]　、
[illegible]　桃
[illegible]　李
[illegible]の[illegible]　芭
[illegible]の[illegible]　杏
[illegible]の[illegible]　杏
[illegible]の[illegible]　杏
けさ[illegible]の[illegible]　杏
[illegible]の[illegible]　桃
[illegible]　李
[illegible]の[illegible]　李

源氏の釣人かへりきし　鶴
枯野の霜ゆめも寝覚る　底
何となく生る庭のまゝ草　全

晴流　六　宗悦　也
宗春　八　梅也　七
其字松　十二　宗今　七
紫宇和　七　孝慶　六
同然　十二　宗竹　一
元筆　十
平隠卿下　十
宗貞　八
平円　…

何路　千文八十二十八　於同人

月おもて空に夢の覚れ　常
胡と人牧にくみゆの音して　牧
これ来乃居ならむ所ひ寝ゞく　常
呉竹ゝの旅乃なみゆくに　三
折てみまぎるの色ゝ羽月ゝ　秋
車の玉こそ来ならの門に立　底
猿いふきみのへてしるのらに　紫
乃終を部りてもひとすら宮　宗
橘よ守る露に落くの音にて　ぬ
面かり松の月のしやけき　全
里へ行の花あり宿きに乱　亮
こゝのつれとも古の春　弘
行向の野にぞ行かる物ちらて　兼

[illegible]　[illegible]

[illegible]　野坡

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]の[illegible]　[illegible]

[illegible]秋の[illegible]　[illegible]

[illegible]日の[illegible]　[illegible]

[illegible]の[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]月[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]

[illegible]　[illegible]

世[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]の[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]書[illegible]の[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

一[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]風[illegible]世[illegible]　[illegible]

[illegible]の[illegible]　[illegible]

月[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]の[illegible]　[illegible]

夢に弥陀にたよる山　拙
後の世をいのるも我と定めぬ　紀
ゆかしき誰かあるまじき世　尼
思ふ事つゝむ人もなき秋の夜　宗
うらやむのは八十の春　幸
吹風の世に散る柳の糸みだれ　岸
法の舟こそ行末の旅　柏
田舎にも露の回とをあはれ　拙
生きてゐるを問はれし人　宗
心くるしき事と語る身　光
家を出で君待人の宮　岸
まことに身諸人のかゝる　柏
備へてまうけおかし　紀

同三

秋の月その浦の嶽　宗
松にかゝるは夕暮の雲　拙
風わたる山の谷の梢　岸
むら雨のあと有明の月　柏
鴫の鳴く人見る一時
ちるなかに木の葉もさえて　光
万ゆく岸に音する山の滝　幸
よそにみぬ行くはらから　岸
心せよ何の関をかよふ　拙
それなりもとものなり　紀
野がらすも寝ぬる夜の　光
ゆきかへり嶺と浦の嶋　尼
老が身にはいそぐ　宗
　紹

西はこはなれ行ふるさとにあらぬ 宗
霞の日もひとりの山かけ 能
なくひとは行かたしらぬ春雨に 昌
きえきえしるやゆめのうつゝ 養
のこる夜は空なる月もきえぬらん 宗
ねぬ夜ひとりの露のおきふし 牧
吹をくる風まつ竹の行かたに 紹
雲はかゝる松の下道 元
暮来つる深山の奥に宿かりて 牧
引わたる河浪にしつむ 紹
やなく山ふかき人はこゝろもしつゝ 宗
はかなく思ふくれの秋 元
いつの宿かゝるは春のとしもと 元
いつくにもゆりおのゝ子 政
ひとりくらせと人はいはぬも 昌
うきわかれこゝろにかよふ夢の秋 牧
月のかけのみのこる暁 據
あまのたく藻塩の煙かすみ行 宗
津はさゆる浪の上のあま 宗
わかれこそ夢は枕のこゑ 昌
の浦ちかきゝしほの夜のさと 紹
ゆふ日かけのみの山のはに 紹
かくれぬまゝ浦の戸に 紹
さそひゆく袖のしつくの雲の 昌
なみたにもきりのふかきほとり 元
行さむしきぬ衣うつ袖 紹
それとなきいつの仙人の今も 牧
その里に住むかたもなき我 宗
竹の下道のわかれ 宗

ぞうや既に歌よみてと記さる　㕝
またかく消えその頭出掛
歌よみてしも月上ぬ晴れ居
行く夜の跡あくまで　文

元亨十一　大保二
宝和十三　天聖三
景隆八　咸亨九
皆宝和十一　紹聖八
開耀十三　宝暦三
明応　咸寧一
嘉宝和六
大暦七　さへさへ

卯ノ下　百五九二

いまさら夏から[illegible]とされ
門ある竹の枝かけそめん
御意はうち神の行末　拾
二乃もの毛は春ある古の春
くだけの月やささみ足足人　牧
月もとよりのみかれて
其まゝあれ行ぬまで来りて　拾
咲かるらむ来しおしとか寒
心ある庭ののかりさき　牧
とゆつうし兄ある咲えはゑん
ひきめ夜の入りさふから　拾
いまだ嵯峨の田作る花よ　牧
年くよめ枝にはしくは桜り
地けふけふめくしの雨　牧

きもあやすいかにあけとかて　拾
待ちある日も晝るぬるらん
わんきくのかるきしやれ　拾
いきぬの春は黒行桜かな
やかうりる雲を春秋花　牧
山深くゆゆきちかくるの春
形見もて乃原へたゞもきて　拾
見てそなえつてくけて
及ばれどかゝるてあやみけも　牧
今しこ姫が春いさもれ行
年ふ夜かけ夕や老ゆるもみん　拾
氷もきえもらしく世の花もあく　牧
うきよのやしるやれのちの雨
送られかゝし春千代桜の宿　牧
つくえてかけ仲月てしらうら　拾
きらうしてからいふく人け
及やなかゞちのそのすゝかれ　拾

色々の花みちうら[illegible]　牧
明ぬる[illegible]のまきれ[illegible]
風さそふ[illegible]
月すみけるの木の[illegible]　牧
月にはなるる山[illegible]のきえ
秋[illegible]の ゆくへそ松[illegible]　[illegible]
こすゑの[illegible]つり[illegible]
生死世をし[illegible]
[illegible]のとく[illegible]　[illegible]
なのめや秋の[illegible]　牧
ゆめ[illegible]門じ[illegible]木の秋[illegible]　宗[illegible]
[illegible]のその八[illegible]　[illegible]
[illegible]

下京[illegible]にて　天文八年
[illegible]木のけ
月[illegible]山の[illegible]　[illegible]
[illegible]
[illegible]のくさ[illegible]　牧
[illegible]
[illegible]の[illegible]　牧
[illegible]山
[illegible]風[illegible]　牧
[illegible]月[illegible]
[illegible]　牧
[illegible]
松木の興[illegible]　二月
[illegible]山[illegible]　牧

何船　天文九　正月廿四日

梅につまてなをせてめくる春の風　宗
月にゆふくらくらき霞の行　牧
雲にむかふの山は夜ふかくて　手
舟いたすはてしは河の霧風　中
あさなきの浦人の浦の舟　紹

こゝ神の人をまもるをまもり
つまにはなむかし流しく　牧
岩ほに清き苔の清きくにゝ
奥ふかくてやよるひるの　宗
いきの夜のころにかふ心を尽て
いつもとこかのあそしりの　孫
恋をかるゝ物とあなかの露
そふねふみて思ひそてうし　牧
ころをいふ人そそる
あかしてかゝし夜さくむかし
面かけの空やゆめのなかし　孫
はか霞に雨けさむかれ山の
花の名のへのゆふつさし　牧
思ひかり界の花をさらへ霞く
きゝつゝもみちをとひのくれ　紹
そこのかりふかくをさま
一声をきゝてこのこゑれる夜　孫

深みどりかへやらん [illegible]
そのうへに [illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
月 [illegible]
なの [illegible]
[illegible]
[illegible] 山橋の [illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible] の [illegible]
[illegible] の月
[illegible]
[illegible]
[illegible] 月 [illegible] 廿六

何路 天文九 二月廿六日 月次

[illegible]

何船 天文九 三 廿六 月

[illegible]

何船 天文九 四 十 月次

[illegible]

何人 月次 廿六 [illegible]

[illegible]

立田姫桜ハ[illegible]　玄誠
[illegible]中竹　紹[illegible]
[illegible]雲[illegible]　宗[illegible]
[illegible]　紹巴

賦何　六月廿六日於梅月紅

[illegible]草　[illegible]
[illegible]月[illegible]　紹巴
[illegible]　玄誠
[illegible]　紹[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　寒

賦何　七月[illegible]月於梅月紅

[illegible]山[illegible]風[illegible]　紹[illegible]
[illegible]夕露　[illegible]

[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　紹巴
[illegible]　玄誠
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]

何人　天正九[illegible]

[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]月の[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]

何路　天正九九月十六日於[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]の[illegible]月の[illegible]て

[illegible]

[illegible]の[illegible]

[illegible]

[illegible]の[illegible]

[illegible]

何人 肩きる

[illegible]の[illegible]

[illegible]

[illegible]月[illegible]て

[illegible]

[illegible]の[illegible]

[illegible]は日の[illegible]て

[illegible]の[illegible]

[illegible]の月[illegible]

[illegible]の[illegible]の[illegible]

[illegible]の[illegible]の[illegible]

[illegible]の[illegible]

[illegible]の[illegible]

[illegible]

月[illegible]

[illegible]の[illegible]

[illegible]の[illegible]

月[illegible]の[illegible]

[illegible]の[illegible]

[illegible]の[illegible]

[illegible]

[illegible]の[illegible]

[illegible]月[illegible]

[illegible]

[illegible] 桃
[illegible] 山
[illegible] 衣 松
[illegible]
[illegible] 松
一挿[illegible] 桃
[illegible] 衣 松
[illegible] 桃
[illegible] 松
[illegible] 桃
[illegible]の月 松
[illegible] 桃

[illegible]山[illegible] 松
[illegible]の下[illegible]
[illegible] 桃
[illegible] 松
何[illegible] 桃
[illegible]の松 桃
[illegible] 山
[illegible] 芳
[illegible] 芳
[illegible] 中
[illegible] 桃
[illegible] 芳
[illegible] 松
[illegible] お

[illegible]片岡の杜

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]中[illegible]

[illegible]神[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]月[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]棹の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

秋 春 [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] 中 [illegible] [illegible] [illegible] 荒 [illegible] [illegible]

[illegible] [illegible] 中 [illegible] 荒 [illegible] [illegible] 松 [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible]

年経たるところ〳〵の[illegible]

あきらめの[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一女の姿[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

門さゝぬ宿ハよもすからなし　紹
ミち遠き千里の外も吉野山　其
春のゝ花に春の長閑さ　玄
かすむ日のひかりもうすき柳陰　紹
竹の下ゆく水ハ氷れり　重
寒けき夜の嵐の声をきゝわひて　紹
夢ハ覚てもゆくゑ知らす　其
月見れは宿にハ帰る夕暮に　紹
竹の園の月のかけ風　其
いさよひの月も更ゆく露ハたゝ　玄
おもひ入心の秋ハさひしき　昌
有しにも千々の思ひを重ねつゝ　玄
ゆふ暮の雲もあはれならまし　能
帰るさも遠き山路の秋の空　手
ふりぬる宿ハたゝならす　吟
露ふかき花もしをれて月の夜に　紹
物のあはれハ知る人もなし　玄
さらぬたに霧の籬の秋の空　円
行ほとにいま暮の山　其
時雨て寒き嵐こそふけ　昌
ふかき夜の月の光の雲かくれ　中
あはれもたゝの行末のさそ　召
ねさめして月に心をつくしつゝ　掟
おもひのまゝに絶ぬ思ひ　根
執筆 一句　仁
元孝 十　云
玄仍 十　云
昌叱 九　で
前の御句ハ三くさ　云

[illegible] 十二

宗[illegible] 八

宗祇 十

肖柏 九

[illegible]

[illegible]

[illegible] 宗祇

[illegible] 肖柏

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

見ぬ旅人何とはしらてそこ
思ふて[illegible]こそ見えし
又松にも飛の音されやらすゝ
松にても住むけれ[illegible]
[illegible]
松風の音[illegible]居
[illegible]
秋霞に[illegible]ひ船の[illegible]
[illegible]
何の[illegible]のに[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
いかにすれ夕暮の人
[illegible]
この山[illegible]仙人[illegible]
[illegible]

更にいかにかれしもさそ
都の空に月[illegible]
いく[illegible]飛ともあらん[illegible]
[illegible]のひきてくらき
[illegible]中[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
人のゆめのむかしを
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]野[illegible]
雨にうたれ山もそむる
[illegible]
[illegible]

[illegible]

七ツ乃[illegible]月
終日[illegible]
小車の[illegible]
杉の根[illegible]
[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]の山[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]の[illegible]
一[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]の[illegible]

[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]神の[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]の月の[illegible]
根[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

枝 [illegible]

[illegible]

元常 十　[illegible] 九

[illegible] 十二　[illegible] 六

宗[illegible] 十三　宗[illegible] 六

[illegible] 十二　[illegible]

新田御方 八

[illegible] 八

慶純 七

千阿　天文九 十二 十四

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

釣つゞき行旅人ねさ笠されね　ね
みるといくもみせんとまし
春の田鶴の月をかすめり
けらの行いとまよえ御つ接　日
つ霞すてくれよりく杉りけ　松
春をまちにのよるなきまし
山風を限ありと御舟
下さのすられ鈴むらされ　日
ひとふるらべく涙まるとそよ
物やみくるもふ時け行の秋　牧
けふ行りもとこさていふさ能
ゆくれ明まれ思出多の今ち　日
松けくけの行きちふの杉　松
まるりや祈神さらし枝のとらく
ちるさきふさるの寺都の行さまや　日
名月も涼し秋の夜の行秋
けふさる府の月かくまれおそて　日
ぬるとのそう衣くたにた　さ
我身にさてふかみやさみ　日
むしまをとこれ御ゆらん
たきさえやてらぬまもちれ
此の行本の行川の山　松
あるいふるふるてはてましん
夜をともて春にくるは　牧
家をかけしのさのとを
明ぬ前にまつてかね寺
るもののあくとらはなし　松
仏への行をふ山やちらぶし　茶
ふ花の家のさふの色ちる　牧
かさら名えしすすめらし　慶
きゆ上やかまるしの露ゆ　松
ちぢるつらてきる出る日を　牧
るもれてそ有るまちかゆき
たむれゆふ山にやたるを　松
秋をとえ里の夜さ〔illegible〕

うち中あかくれはてぬめる　牧
すきかたの人のかけとそなるへし　松
たちそむる枕の浪に袖ぬれて　牧
行さきもしらぬ旅のそらかな　松
ふる里のけふや恋しき秋のくれ　牧

何木　天文十一正廿五

玉霰かひある音を軒端にて　元常
風さえてゆく松の春　昌羅
雪の跡のこる垣ねや埋むらん　御坊
音そふ松にかゝる山　岑
ゆふかけの神さひて月やさやかなる　竹
霧の外なる浪の入かた　宗
夕日さすとも見えぬ影まつ　右
秋風のふけ行かたの空はれて　敬
いまやかりねのをのかすむ　盛
うきをしる秋やあるとの枕　宗
思ひの露もなかなか　実
にはかにあはぬ今の心　信

いとしてたえゆく人のかなし　牧
まつ暮てこそみゆる花の紅　松
春の日の幼き心のはしの辺　牧
梅を見る袖もろともに下ふ風　松
思ふこゝろの山かけの中に　牧
しらぬかやとそ流の水しらし　松
折りけふ春の開くる風の音　音
あやしきはきのかなの月　牧
日くれの千鳥なこゑ鳴わたる　松
物思ふてもつれなくして　牧
あふをしらぬのまたかうくれ　松
ふるきのなかにふる道の葦かれ　牧
うちの露にかゝる古き　松
のちはたもつかりその花の空　牧
みきに月くてるや夜かは　松
草葉かの松の末の末　牧
ちかく神さびたるかの雪　松
てんしんの山をしたかくつきて　牧
ちさきくつかりをふきてむ　松
ⓐ

[illegible] 宗
[illegible] 拾
[illegible] 牧
[illegible] 拾
[illegible] 牧
[illegible] 牧
[illegible] 拾
[illegible] 牧
[illegible] 拾
[illegible]
[illegible] 牧

何木 天文十二[illegible]

[illegible] 拾
[illegible]
[illegible] 宗
[illegible] 昭
[illegible] 拾

何木 天文十二[illegible]川[illegible]

[illegible] 牧
[illegible] 親
[illegible] 拾
[illegible] 茶
[illegible]
[illegible] 拾
[illegible] 牧
[illegible] 拾
[illegible] 茶
[illegible] 牧

今[illegible]ね[illegible]山一折しくれ　拾

西行[illegible]の[illegible]　拾

[illegible]風の人[illegible]の[illegible]　ね

[illegible]　拾

[illegible]の[illegible]行や[illegible]きの[illegible]　ね

い[illegible]　ね

ま[illegible]て　拾

[illegible]の[illegible]　ね

[illegible]の[illegible]　拾

[illegible]の[illegible]のみ　拾

[illegible]月の[illegible]　ね

[illegible]の[illegible]　ね

[illegible]　拾

[illegible]　拾

[illegible]　ね

[illegible]　拾

[illegible]　ね

[illegible]の[illegible]の[illegible]　ね

[illegible]の[illegible]　拾

[illegible]の[illegible]の庭　ね

人[illegible]　ね

[illegible]の[illegible]　ね

[illegible]　拾

[illegible]　拾

[illegible]　ね

柳[illegible]　日

何木　二月廿日[illegible]

[illegible]　ね

[illegible]の[illegible]　[illegible]

[illegible]の[illegible]　其[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]の[illegible]　[illegible]

月の床涼しくなりける秋もなし　月抵
ちらりと白菊ひとつかみ也
先路ちうて花や玉にしらぬらん　抵
折しきくむ竹の根すゞしかる
晦月の影にしられけり　ね
竹の風松かれて吹すゞし
うき所に錦もみ路の紅
手乃子山の明をさゝ春
わたりて竹の葉の下露　ね
松にかゝりて寒し錦かれ
浦を渡り紅葉の竹の色　ね
色うき神うらひのかり三や
えいり月の夕しや出
秋の野に置くもの家こゝろ　ね
松の月のとこゝろにゆき紅
まよふ霞のはてをたてし一抵
ゆき行すゝめてゝさらて
けふの月こゝろのまゝに見れて　ね
ちりぬこそ花の都みて
何人　二月初卯　雨中ニ吟
春まゝ〳〵けに似たりみの袖　宗臣
手をやすめて白き萩にかし　宗具
うちけとゆられ日ぐれて　紀峰
深き雲林をもみちさし添ぬ
秋まで竹の葉くもり行
ころもしき里のあるもしき也　抵
言うるふこゝの床なかなかの　抵
夜もいかにそこのさそひはて哉　ね
若葉かをかく神の宮かな　抵
ここらの池をこされてそ　ね
秋萩やはてなしの人にけ
いかなの浜のとりもの月ぞとえ　ね
木芽乃路をたて松の色　松
てのまにかゝるをくるか
なもくさせ良き見のまゝ
きぬにをて見なおいをも　抵

[illegible]　牧
[illegible]　桂
[illegible]
[illegible]　牧
[illegible]　桂
[illegible]　日
[illegible]　牧
[illegible]　日
[illegible]　桂
[illegible]　牧
[illegible]　桂
[illegible]　牧
[illegible]　牧
[illegible]
[illegible]　日
[illegible]
[illegible]　桂
[illegible]　牧
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

こともなく松にむかひて老の身に
いさゝか月のさかりをもよほし
こゝやかしこにうつりかはる
秋風もふかく心をくだきし
松のもみぢにかゝりて
めぐりて其の秋のあはれを
さればとて夜もすがらやに
まかりて秋の老が身を
更科なる月のさやかに
山にのぼりて今は心も
いかにあはれなる海の
かゝらむかしも月は
ことさらに心をとゞめて
姨捨山の今宵の月を
更科の道にかゝりて
旅寝の夜の空を詠むる
あはれなる月の山
ありしかば秋のあはれの

のこ波形えてゆく末をさへ
こよひや月すみて前にも松ぞ
海にうつりしに古への什
東の山ふかく人の草に立そひ
今宵をも見ましや夕暮の
夜の山のさとをるに庵のうち
物ぞなきかげの夜すがらに
夜もすがら詠めやりし古き
風もあはれにすみわたりし
旅立て夜更けゆく雲の
いと秋の月に松をまちて
露つゆしの奥に物ぞなき
何をとゞめてかひあるも
おもひやる海の底までも
これをみてとひ来りし舟
眺めて秋のあはれをかこち
人の世にむかひて何をか思ふらん

若くも花と咲ける　てふのみこと
ともなりてえ見えぬるかも　あまたく
春川なぬもかくとこそ詠みける
さしいでたるくもふかうてこそそれ
秋の夜の空のやみの夜見えて　く
始もおそれひしゆゑに神ぞ
神なをそぞろ山ぞえの花の雲
そちらの岩の[illegible]ぞえへく
すゝきてひの[illegible]そあしくこそ
うきのをらふ[illegible]ぬれてこそ
らそきふ[illegible]はき[illegible]とらる
若の[illegible]なれると見の[illegible]
さん[illegible]の月の[illegible]て
[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]て原
月[illegible]人[illegible]る[illegible]の[illegible]さし
[illegible]らふしと[illegible]そてのもき
ふかくらん[illegible]きる
[illegible]らうてこの[illegible]
[illegible]もめきの[illegible]たさ[illegible]や
よこし年[illegible]て[illegible]の[illegible]し
神[illegible]とし[illegible]せの[illegible]
くきまもれ[illegible]くうのき
[illegible]て[illegible]の[illegible]て[illegible]
[illegible]つれ[illegible]の[illegible]
たの[illegible]との[illegible]みかのく
[illegible]くれ[illegible]てき[illegible]
くき[illegible]を[illegible]て[illegible]
[illegible]そのくしの[illegible]
[illegible]の[illegible]やけ[illegible]
[illegible]の[illegible]風さらる
[illegible]をれの[illegible]の[illegible]
[illegible]くれ[illegible]のしと[illegible]
[illegible]の一[illegible]てそ[illegible]
[illegible]のしきし[illegible]
[illegible]てき[illegible]の[illegible]
[illegible]を[illegible]のら[illegible]
[illegible]の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

竹子 [illegible]

葉分の風之ノ路八重霞 [illegible]

小篠に啼 [illegible]

嵐吹松の [illegible]

夕げ [illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

のこりてこひめしのたのみ[illegible]
色あらく[illegible]萩の風 松
朝日さす[illegible]きらめく[illegible]
さなへのうへ[illegible]山
[illegible]の[illegible]
しらてあられそてのさ[illegible]風 根
[illegible]のこ[illegible]山 松
[illegible]のかけ[illegible]世[illegible] 松
[illegible]や[illegible]のくら 根
[illegible]の[illegible]
[illegible]人の月[illegible] 松
[illegible]の末[illegible]
[illegible]夕日[illegible]門 根
人の[illegible]の[illegible] 松
[illegible]
[illegible] 松
[illegible]や[illegible]山 根
ゆく[illegible]の山
[illegible]の[illegible] 松
[illegible]門
[illegible]の[illegible] 根
[illegible] 日
尾[illegible]の[illegible]
[illegible]や 松
[illegible]の[illegible] 松
[illegible]月の[illegible]の[illegible] 根
[illegible]の[illegible]
[illegible] 松
[illegible]の[illegible] 根

晴わたる空も波のさわかしく　宗

こゝろかしの葉末にやとる見ゆらん　拾

風吹もさひしきまゝに折く　宗

音もせぬ魚を行く風や杣の葉　拾

行方も見えぬ志賀の柳　宗

山人のまつひの田毛打ちてし　如

ことしき月の朧月のまゝにて　拾

行帰そのよひの思ひのきか　[illegible]

冷しけり姿の木の葉散る　ね

露を乃ちふかくしてのことに　[illegible]

何木深き高き花に嵐　拾

分きつゝやはる月の花紅葉　紹

いつとなくさらまし出わけてきなく　宗

我わかなる風の秋の跡なし　学

植ゑてしくはなき花のかけ　[illegible]

おのつから宮のゆかりの春なれて　ね

きのふのけしきはなるとそ　も

一むらの荒れはてぬれの垣を　ね

山ふかくわすれぬ海の波の　ね

たのむより様にさかなき雨ふりて　[illegible]

朝霧にうつれもののさすそを　覚

おもひも月にうつる秋の朝顔　[illegible]

秋のくれなき草木の中の比　拾

うつてのよやさしうかるかな　[illegible]

生草れるくしも山路の音たえて　何

深くさらまし花の中の朝　学

いかなる世の数とも月日たれて　[illegible]

さきとふかしのうへの月　拾

うつしもさまかきの絵　[illegible]

あけかた風に雲かとるまくさか　[illegible]

とまれるよその月花のみぞつらて　[illegible]

雲の空の雁やとものうらく　何

[illegible]のおもてにやかましき[illegible]　ね
[illegible]こゑきこえて[illegible]かなる　ね
[illegible]に[illegible]つれ[illegible]の[illegible]　ね
[illegible]の[illegible]　ね
[illegible]　ね

何人　五月十三日　夜

[illegible]　ね
[illegible]　亭
[illegible]月[illegible]　益
[illegible]　れ
[illegible]　中
[illegible]　捨
[illegible]　全
[illegible]の[illegible]　ね
人[illegible]の[illegible]　政

[illegible]の[illegible]　れ
[illegible]の[illegible]の風　松
[illegible]の[illegible]　松
[illegible]　捨
[illegible]　れ
[illegible]の[illegible]　捨
神[illegible]布[illegible]の[illegible]　捨
[illegible]日の[illegible]　捨
[illegible]　と
[illegible]　捨
[illegible]　捨
[illegible]月[illegible]　松
[illegible]の[illegible]　松
[illegible]の[illegible]　松

淵とへさす行月の影に　[illegible]

明ぬ夜をさへてたゝしむ秋の風　[illegible]

こゝろしらぬのしるへと思ひ入れ　[illegible]

我身ひとつはうき[illegible]よ　[illegible]

かくれなき[illegible]海の[illegible]　[illegible]

[illegible]河に[illegible]の夕あらし　[illegible]

何千[illegible]ふて[illegible]　[illegible]

[illegible]のおもひも[illegible]　[illegible]

[illegible]かへり[illegible]　[illegible]

[illegible]秋[illegible]のやまも　[illegible]

[illegible]見せ[illegible]つゝも[illegible]　[illegible]

人[illegible]の[illegible]山のいそ[illegible]　[illegible]

[illegible]の[illegible]　[illegible]

[illegible]やそ[illegible]　[illegible]

[illegible]山[illegible]の[illegible]　[illegible]

月の[illegible]ひの[illegible]　[illegible]

山のこすゑの[illegible]　同

月かくせ[illegible]浪[illegible]はいりぬる　[illegible]

うらの草の葉乃山かける

[illegible]ゆふき[illegible]の雨て　[illegible]

[illegible]秋の[illegible]の[illegible]　[illegible]

[illegible]や[illegible]　[illegible]

[illegible]月よの[illegible]の[illegible]　[illegible]

何人

天文十六　廿[illegible]

冬[illegible]風[illegible]　[illegible]

山[illegible]の下[illegible]　[illegible]

[illegible]月[illegible]の[illegible]　[illegible]

[illegible]の[illegible]　[illegible]

[illegible]や[illegible]　[illegible]

の[illegible]里[illegible]　[illegible]

[illegible]の[illegible]　[illegible]

[illegible]来[illegible]　[illegible]

かゝるのちよりはやゝ絲つゞき見落
ちきらんくうつの月のうけ　雲仁
細行て東ま花の木かけ
袖とられてあやうかりけれ　揺
その国よりもされてきのえ
くらけの花さえたる　素紀
のこりたる寺の音　白
笑ふのかとり月に明渡して　秋
何人　癸十七日　揺
ちるやうし下萩花咲る　鳥嶽
此のみゆふゆめやうき　[illegible]
伏見の宿をうれ木々く見て　見紀
こ升のうれあそしき　雲
山鳥打花うけてゝ　扎
又はとかの打しくれて　宗
所納の首ふりしつかに　牧
生まれ行にちはやきえ　江

月さゝの里ちけ弥陀つゞて　今
落花くらうのみ
おもふれ白へ行て無人
御ふもの引く経とうけて　春居
行こ浪の神くあやしう
参りて来てくそうろ宗の舎と紙
さ子くてつこくゆめの
月ちゃうき社の袖すて　紀牧
こ浪のもこれのくのち行
わちさう鳥の白とつまうて銀
新ちうくはの春とえあのた
あやいつもあ古幣のえ気鑑顔
田作ここに作しく
はちくそくらせくよの也し
御かの花の行のタ霧寛道済
別れくも打りの吾寺　孔
落ちし隣く善よくてえ　孫
ひろくはきとち知れ按つゝ　字欽

しくれつゝとけ旅の[illegible]
さゝの月[illegible]かゝる[illegible] [illegible]
八月[illegible]
てらの[illegible]かゝ[illegible] [illegible]
草[illegible]行[illegible]の夢[illegible]行
月[illegible] [illegible]
野[illegible]けし人[illegible]おもへ[illegible]
[illegible]うれしき[illegible]
つゆのまよひ[illegible]
一葉[illegible]の[illegible]根[illegible] [illegible]
[illegible]
[illegible]ちりの[illegible]
行[illegible]
夕[illegible]の里[illegible]
[illegible]
この山[illegible]の[illegible]
[illegible]

[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]
もし[illegible]の[illegible]の旅
[illegible]の里[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]
天文十一[illegible]
月[illegible]の[illegible] [illegible]
[illegible]きの山 [illegible]
[illegible]の[illegible] [illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible] [illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible] [illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]月[illegible] [illegible]
[illegible] [illegible]

空かすみてたそかれの雲 [illegible]
水くみに出る人の袖ぬれて 揺
あき夜の露ぞ我をぬらしける 茶
秋風の吹くのもとしられ 茶
めし[illegible]秋の露しほる [illegible] 揺
[illegible]
[illegible] 茶
夕の山[illegible] 揺
[illegible] 茶
冬[illegible] 揺
[illegible] 茶
山[illegible] 揺
[illegible] 茶
[illegible] 揺

[illegible] 揺
[illegible] 茶
[illegible] 揺
[illegible] 茶
[illegible] 揺
[illegible] 茶
[illegible]の月 揺
[illegible] 茶
[illegible] 揺
[illegible] 茶
[illegible] 揺

ちらちらとなくてなにとへきこ
ちりてうしろに会へさかりし　拾
すのうれしきみ年ともやうれ　牧
みやこの花に行とりて夕暮
柳のちりてけふくもこしむ花の宴　拾
ちりみつきてそゆる[illegible]一節のし　内
つらよきれんつめにのしむ
まぬきの山里かけて時　日
桜の花もとのもとをすき[illegible]
ともやみやこの春のゆかし
緋の清けりしまつも風花咲て　日
八月十五夜
花すなて雲も鳴けり夕されは　牧
わきこの人々しけれやわたりし
あらし吹風の桜の咲まつて　文鈴
胡ちう神のそれてありけり　田拾
岐阜の路ちかつきこん山寺[illegible]　宗
しまきれし末のはしの門　宗因
涼しさの竹の御しにいまし　沙舎
舞のはのつくりく入まる山　興丁
茅ちりしも見えの寄ふれ名白
けやいの花し鳴つとおかけ　拾
りまいちてそのひかりて
けるのうれしみやきこえて　牧

河路

荻の穂の波にみだるゝ霜夜かな　枝

ころも入る明けの舟　珍

金沢の方にはまた寒のけしきにて　事

訪ふ人もなき夜の暮の月　眠

小夜更ぬ紅葉ちるやら雨の音　執

木がらしのふく山のおくの宿　宗恵

下るゝ月の光のさびしさや　帝砂

入日のころとのごろ入る野末　庭宗

若草のまはりの梢かすむなり　蕉

夜もすがら流のまゝに　遊

ひるあるのくさやかなしくも　枝

きさらぎの末の月もしらむなり　西收

花もちりて雪も消えなく　珍

夜もすがら吹く風の音　事

そゞろなる心のそらのなみだかな　眠

袖のまくらのふる雨かな　執

[illegible]

恵以金篆正宗不次佐学孫牧清手金恵後之牧

[illegible]

[illegible]

[illegible]

宗牧 十三
[illegible] 十
宗養 六
康栄 之
正[illegible] 七
吉[illegible] 七
歌信 七
政[illegible] 六

宗[illegible] 一
中隆 九
宗恵 六
宗[illegible] 十
重進 七

葉宿 卅一 追加 天文十二 三月廿六日
宗牧 瀬蔭[illegible]

[illegible]

まのした宗長にてかくちらの紅
松をめくりて山風にをされ
根松に浪をなれ木ちる古こそ
其ちらくて別行のとほり
堂るかるはもけてさいそれ勅は
あらきらはりしまやさゆきん
堂とふろ相は神のまもく
アらうさひうつたりての月
さかとら山枝の紗りまきくそわりと
名をしまする石の水車
紛れ葉をきちりりてく名をとひ
まらふん金やらにお折ゝ道
かゆうそこくまをて行ら宮の内
つきぬこまりさくうり海の底
とあのう芸のりうくてぬらふ
こゝろ御名のるさらくるもの
名あちとめまそある御れ並ちてれ
しゝのつ

こふしくへまきとかふちるのそん
あふれにてふきうろ一節すこと
いちいもいりちのたの香
色衣いきの月をきの宵く紫ちりて
おくもひろしもれくへの名のみとより
ふもしはあやりとて所のよみ月
アそて苦りて岩のこうつくま
ともにふ名はゆふつきぬ海ゆた
紅見をもんしをとまを文けとすん
葉てあつをれ行ちとまを着
不て藤まの松舞んてらうと
うさきこしう岩わりのよれ哉
れし鳴門の鳴くれのよろく
さあけても風の音のさ遠く
ひきわ続くう号のなとの
秋くそうもとめふくちもうきん
あきれくこうれいひくそうか
みてりとみけく夜のむ乃なく

松ゆへにこそ神のめくみもし
らるゝ事よ扨も此はるのはしめ
つゐにそのて捨ゆく山
深のこ人々なやまさの春風
雪と日の名のこりくれかゝるさ
しら露のきえ/\てもかのこえ
いとゞさていはしへの秋
かの大江も何を名のこれ有
哉と見よしてもの由をさん
紅葉ゝ紙をはのはなさく
松葉をかしこくれりの
岩にうつる見にあらはれや
のむかしかりはゝりまへの人とを
としはゐつていさ事よ経
絵その日をとゝこゝら
ものゝのあへ人のもいかさま
とれのの春のおもて
かさへてら来紙のの
十
田中丸

かすみの柳の色こそかはる
こちらへそこへ帰るやうの
まれさせ捨てきつめてのみれ
雨けの名まゝ汝ら名暗く
山さとの初いきしひの木
なけきて深くさまさもの
むかし色ふ名見るかとも
まれて紅その物あれ
雪ら渡らてとふことも
こやかれ風にて折りかしと
ゆかれてはふとも
なからせる神しまれまへも
まにかくもとりらのみ
てらの絵をかへり寒さ
さのこや名の松せ
なれにこそかゝへ
おもふ絵まきてし
あくかれの名もえやれ竹位て

花のなちるといふこそわかるらむ 九十

けふ見しもみぢをふきかへしけり

なかれ出の東都の流

ふきいまよりも秋の都のを

わかれしもそのなごり

言葉てふ和の道のもとゝし

うたふものゝ文字を

[illegible]

おもひつゝ雨の夜の月

ふる[illegible]の涙の

あけのみち[illegible]

山これかの[illegible]

[illegible]

あはれく物の絵[illegible]今日け

きぬやそれ[illegible]

宗祇

いつも君と

人のうきもこゝろ[illegible]のは

おもふ山路の[illegible]

山城の[illegible]

[illegible]

[illegible]

けふもなほ梅の花[illegible]

ふかきこゝろの[illegible]

[illegible]

[illegible]中宮の

[illegible]

[illegible]

[illegible]小車

[illegible]

[illegible]文後車

[illegible]

[illegible]

て与しかゝ弟まもりて
さらんとやうられ梅わか
われるやうれ給ふらひさち
のちちゆはしらりの中ちか
梅わか様より待かしまゐ
らくらい若様ゆりたまふよ
御身の中ちかは梅の木のもとに
のそれて若様乃ゆき給ひて
まいりてあれらせて梅わかに
小人て姉か
あらしへまいりて着あれ
御くはれまさとも一念に
まい人やのみしこれ名残を
きりしるそれてあはれんとせ
つまこかれいらしら行末をも
にそれ是のはしゝおもひてなか
てしも宿りし
梅若ちんかゝ文いふかたい
しらて御方ゆりて名乗ゆく
若様らか若様いろいろて梅若
乃ちうつくしれ是の心こたへ
わらしてそれいつく
にゆみゆかりて梅の花
ひゆりとあらそれ心文
母者のおもひそまろくし
おもひやりとなきもの有
しらて御つくしく梅を清く
梅わかて年まて御身もいはの
ゆらうりてそうりまいやしは
らかいなうしなるりく給
かなわれで思人御名まるを
是やまかせし今てものくれ
ふまら法遍照院御前もぬ
ゆうきぬ本いへまいりけん

[illegible]

天文十三年二月廿五日 [illegible]

[illegible]

何路 天文十一年十一月廿五日 [illegible]

[illegible]

三鉢のむかしの山に書付て　重徳
いつくらの神もしらぬ森に　其角
ちかくれて月ならぬ夜の[illegible]　才丸
いつうしろに紛ふらん　麋塒
森の木も秋空の嵐凩　宗旦
門田の原ひとつかり合　抱艶
数らのくも山すのかり[illegible]　翠紅
[illegible]てかのそくら[illegible]　九仙
神さかて行かうり往かし　如泉
なにかやく翁めかうる　宗
染て筆をく旅人に[illegible]　図格
てのかしれ何の金くうえ　常
能くふぬし恥く月を　紫
咲ほこる吉野の花[illegible]人　辛
ふるの神しかつゝ露や　[illegible]
ひくらしもしれぬ[illegible]　芙

あのむかしの芦の[illegible]　あ
春の雲ちらりとまきの山　堂
をむかしのかるかし雲の風　理
あすのかりかのの[illegible]　林
[illegible]ちらの[illegible]人　亭
[illegible]くのくらうくらの[illegible]　信
[illegible]の[illegible]行つて　辛
あるや住らて[illegible]　法
もうこ山の下のく[illegible]　亮
[illegible]　抱
[illegible]　林
[illegible]　才
[illegible]　堂
[illegible]　掟
[illegible]　理
[illegible]　卯
[illegible]　芙
[illegible]　堂

はつかなれ花ならねばうつらし
浮世は四方にさくらのさかん
風に花を散らさじとや大
坐ぬるに浮世の墨人数をけ
寄りて花の[illegible]くるすり
ちりゆく神の[illegible]句に
花の山行乃神のいはの[illegible]
こなの[illegible]しのびてみん
神その花[illegible]かりけり
花かげの白[illegible]思ふさよみつる
[illegible]むりしつかひり
みる神の光を[illegible]くる[illegible]
わすれ[illegible]ひの[illegible]
花迎の[illegible]山をもり
三ふ花の雪の[illegible]
晴りてよく白[illegible]はなかな
くれなゐの花の[illegible]
みをまつ[illegible]
花の[illegible]さくらとさん
[illegible]の[illegible]
[illegible]下花の[illegible]
[illegible]世すらん
しくくれの[illegible]
[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]のひ[illegible]
[illegible]やみ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

松風に雨もそふ秋の茅原
[illegible]のまてくに[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]の月
[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]のひのうち
[illegible]
[illegible]のきく[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]

きしけり[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]やう[illegible]
[illegible]
[illegible]のこ[illegible]

巻第十一　寛文七

秋　清　幸　学　広　揺　理　友　学　光　幸　孫　幸　手　友　学　江　広　光　理　孫　学　江　揺　広　秋　手　陳　寸　揺　幸　光　理

周桂　十二　　[illegible]　六
宗養　九　　[illegible]　八
[illegible]　十一　　文理　十
宗[illegible]　八　　[illegible]　九
[illegible]　八　　宗[illegible]　一
何人　天文十三年八月廿三日[illegible]
[illegible]
[illegible]山[illegible]
竹の[illegible]の里[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]
おい[illegible]
[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]をふたつ[illegible]
[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]世[illegible]
[illegible]の[illegible]の[illegible]
○天文十八年[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]の[illegible]の[illegible]
[illegible]

岩本のけしき物思ふ人
聞えて宮しづかにてはかなき
見えぬれならんこの心
宮この跡やらぬ浮きおもかげし
かりにすむおもかげや安らし
ゆく人も行きもかへる
雲かかる山のふもとの行
峰の月みるまに風もなき
神かけて思ひやるとて見えけるかな
袖のしたに[illegible]の枝
夏の夜の雨の夕ぐれ一夜かな
ゆめのまとろみてさるこそ袖ぬれ
打ちさわぐ舟の影には見ゆる
はるかに渡るかへる雁
かけわたす都恋ぬらん
風のまに誰かは心を
池ありける春の[illegible]

他のちる月もろ人の[illegible]
天文十三十月[illegible]
暗[illegible]山行
とき[illegible]
池[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

跡をとゞめてたちさかえけり
実のうらまてにゆかり
あはれしけれと給へ人々
まさりあはの人々まいらせ
其のうちとまりはへてまた
ふかきにやまのうちを
宝来ト松の松人ゆる[illegible]
とものうへにまいらせ
御子のうへの神の御[illegible]
申うけましてまち
かりまきのりしてもて
うらのおもてなかへ
はちとしてものうへき
まことにまいらせとも
ことをもこそのまいらせて
月とこその御の御[illegible]

なりふしていらうちたり
あかうト宮とけるにふかき
江つさまふくのまうらへ
うまてちやのきしやれ
くきやのうちといのち柳を
のへの人てうのうちの
われのと見えいとまいらせて
やなけの名このきうちれ
茂まりしらとのう
人ことく親なりまいらせて
とのきりのりもとり
ろうあらうへのらうや
ゆくて松本のや人てうと
何某
あすてのさい深のうち給
そもそもつつまれのまゐらせ
なかなかとかなかたぬのみまへ

はれにとつてはのちらくら
ひくてすくは事世のころよりうかん
里おやはりて秋て流れも上
ほくのや岩りわきしの山は
けりてこれしきのたし
ちよの春秋の月の身のうろふ
月のまえつてわきてやみうらん
人の国かん神のかし
ほくろくて安も心やのうち体
るるて江家の世し上のかのみる
そてしと思はまかるこれは出るに
らむきう流れ塞ひ夕かな
皇子てけるすこれのらしの
ちりと思ひあけりけるすくらの風を
両さしまさ真の川出とほこうの
知と人在て宝てくらてうけ
すの秋わ村さ風のてもしき
ともに

春の名残の月はにるやけき
思ひすまして井の里とりうけて
ひしとふくれりうくのしの
まさ女のやつくいまの名きさ
夏の月を秋のうちつつ
山けりてまていふはてことり
様まくれのうつ流れて
人まかめらてあかしとまそれ
おもいほのなかてひつまし
住よてふりすることのし
南そうのおきひしひねそ
これのまくれはりて花るを
この家色まさ真のたもりす
かみすのもりてひそうなりてを
山物人しいう河てや流ひて
河の川そゆしたるう
世の中やそての花の川のあつ

新な宮柱ふとしきたてゝ事もなく
見るよ我もかそへてこゝろ
こゝろんとけふ思ふや世をて
行そや我かくゝけい花かくし
鉛のとやかやかれ
わけ入て見しかけかはらく
またかひとつゆくかなかへ
東けるよりも世に見ゆる
まことや人すむ里と見ゆる霞
桜のかくて雪とみえける
宮古や西の路のかさなりし
咲にけりおりしの花のころは
経ても同の宮の君をあらそ
思ひことに桜の〔illegible〕
かくろ深き道の都とそ
あけくれの春をきくらん
名にたてるやこゝろにかゝり月
なまし世をかれし雲とまて
ゆりしくてさらて〔illegible〕
霧さくはれて見ゆる花のかて
雲かくれてひらくかね
若葉のしらの山城
さゆふしらに〔illegible〕
絶あはれてふ詠もかく
けふの春の〔illegible〕
神代にいろの〔illegible〕
そよや〔illegible〕の〔illegible〕
錦はやこのかしかそへ
松むしくやかすして
何とやらくもとゆかし
いろや気はつかへ
そさめかね〔illegible〕人
ちるとしの花や里まし
せし人ておもひけの山
松とゆはなる花の桜人

家とて人てけふ迄みや世のし
きゝの人のかなしみしとゝゝ
くらそしゝみ君のかたれく
しひとゝやゝ情なくて
み法のことをけしてかしく
京とゝもねかしのとく
けれつやはすの西へ軸に
人々そゝるつりしゝと流
袖のかりと都のてゝしく
けふいはゝ村雨のひま
山ふゝ日ゝとらてゝゝす
風まゝりゝ舟つてはし
猶さや神はのしゝ色に
ちかゝてをとしてかれ
世のそゝ御さかとくく
おさらは袖のゝかのゝそ
ゆくりのみゝれしのゝす
むゝそのかならとはゝ
夜入はしてぬしたゝけし
月に車ゝかゝ神のちら
華のまゝゆの名残ゝひて
の月もむすゝそひしの
世ゝそゝにゝしてたにお
君そて思ゝれはゝ名にお
ゝの女や一ゝわてとゝら
ましういつとゝせかゝく
うるさ物しきり少年をひて
旅ゝゝくの舟のまに姓
さ川けふのゝゝ都のに
名ゝの名にもしてゝゝの紀
朝はやゝ名とゝそくとし
あはれとやさゝ若ゝゝ
旅の名ゝゝ都のしゝ
ゝゝれはゝとかれにつれて
世をまゝ袖ゝ世とゝゝゝし

ゆふ日の[illegible]山
ほと[illegible]旅[illegible]
ふる[illegible]月の[illegible]
千代の神[illegible]杜
林[illegible]葛[illegible]の下[illegible]
那智[illegible]の[illegible]
新[illegible]
見[illegible]山
[illegible]
新宮[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
その[illegible]
[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
花の[illegible]
[illegible]川の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]

御門はさくけうたん神のこく
こそめでたく思ふなれと
一帝まて変の常の出ら威
かわりてる扇とのみ契を
一筆とどめのりねてすさまじく
くわかちはさそまあらく
山ころかなさうてうんそうらん
山里にみれしへとさまみえて
こそすこら川やかかそ風を
気とう思ひのつ世相を空それ
雲らけれは河そののくらは
そらやうり海の里の妙香
玉とうて限に世をとてかし
はるかやまを開くはいうらう
とりや宿のかつの下風
うちなれ末の常はうちに
君の所は好めのさえ

秋のさく月白露やさみわて
ほどに出て世やこそ
とうし光を山もいわそこそわら
月の入ほうくれをまでも
盆すり給とうしやいひらを
く音を花をまうく唯その
のけさはこし男とさのうや
。おもきそて国のかさらう
情うしなきめ山からかさん
浦ささのかくら今の寄のあ
かしてさうそとまうれのうめ
さをはうるあまきの
うち月夜かの弓人さなうおそ
香あらしみ花まう落ちくし
何られは衣あいふろのみ
うらこそうて様ようこそれ
うさまてかし罪に初め身にも
給れは増まし々のかのは

宇治の都ゝ山をせをく
天ありしゆりしあのこと花
山きよあれびの竹と岩をも
月あそぬらう山とやことゆふ
さとしとりてねらのうけ
思ひゝをんをるれのこと
あらすぬ細をや名もし比然
小倉粉代ゐ末のひとをき
余やされらゝけ神のちかム
これをてし神のせ代ゆく
立ちよ所ゆそひらふらやこ白
こころとつけし神ゝのちう
紅葉のて葉御のゑすゝ結て
うれしきりてなのもくるへて下ム
つのうきうれくしくしう
行年ちかね　文いろ
其のことからむ

しらむこゝろの月やかゝらん
うき世ゆゑの道わかれ身粉
宮室の紹ゆ枝み花のひとかん
もそあたて行くし鳴ゆ粉
思ひの稲そえて行ゆ
ららあた見や凡しつらん
世ゝのわしくとられ覧
妻けふえん花のよう夢
家しえてくつてしぶあさ
くみはさしなくあ所のうて
みを細てかの振らしやや
すらすみをしさ下のゑ白
やそかてけいも御の哀
思ひ文ゝりひとせとこす
外のれくけしあもち墨てを
ま数ゝりしけりのまら物も
けふ行けのまうて差ゆ

神[illegible]れ[illegible]
[illegible]日[illegible]
[illegible]の[illegible]の[illegible]て
[illegible]の時ハ名の[illegible]て
[illegible]とす[illegible]
[illegible]
[illegible]の[illegible]行の都[illegible]
白河[illegible]文八[illegible]
[illegible]の[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]出[illegible]
[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]の第[illegible]

[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]のみ[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]の[illegible]けり

それはいづくらかみのくんにも　紀

云て御その身の事のあまりに

都の内の事をみるに[illegible]

思はてよし家にのこしおきつつ

すのみて折らきて侍よしなる

生きたもやのみるの二郎

白かしえし枝のこれ有て

やすらはでとておもひ[illegible]

あらきの[illegible]ゆきもしみなる

御くふ入手はりけると[illegible]

おもひえ[illegible]のまつや

又おもひけし[illegible]

秋の[illegible]一作[illegible]て

つもとて[illegible]のみの[illegible]

[illegible]よう[illegible]やめのととも

よ[illegible]の[illegible]

あの[illegible]てみ。[illegible]

[illegible]そてかて人[illegible]

[illegible]のかしみ[illegible]して[illegible]

[illegible]へ[illegible]の[illegible]

[illegible]ふ[illegible]の[illegible]

[illegible]のおしひ[illegible]

[illegible]の作しあら[illegible]

[illegible]の[illegible]の[illegible]

[illegible]ゆのくしとりき

何人一文元七廿二南宗自ら書

扇にて[illegible]ふに[illegible]

[illegible]しえし[illegible]

[illegible]神の[illegible]

[illegible]して[illegible]の[illegible]

ひとり[illegible]

[illegible]やに[illegible]

[illegible]の[illegible]白[illegible]

うつりゆくかはらにて[illegible]
むかし人竹の葉[illegible]
ここに翁のつまなれは神
まつりし仏や思ひつらさらん
ゆかしと人はかなりしと[illegible]の
[illegible]ことの命しき
言ひのよみかちのめしらせ
まに御京らしふはしとみやらん
よの中やかいあらはしき
あはれ河の身にの都
思ひそめしにすてかたく
心ありし人々の笑とかめして
さうしたまふるの都さへ
月ありせいかや草ふかしの
けふの[illegible]
よそにある宿のゆくへしれす
常なきの[illegible]

しられは[illegible]
人[illegible]の[illegible]思ひ[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]や[illegible]
[illegible]世の[illegible]
[illegible]や[illegible]世の[illegible]
心[illegible]
[illegible]人のむかしとひ[illegible]
いれてと[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]を[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]